

OLYMPIC TORCH RELAY



クローズアップ
CLOSE UP

未来に向け聖火つなぐ

3月30日に東京2020オリンピック聖火リレーが実施されました。本市では、県庁前をスタートし、中心市街地4.8kmを22人の聖火ランナーが走行。最終地点の楽歩堂前橋公園では県内の子どもたちや南スーダンの選手がサポートランナーとして並走し盛り上げました。



街中を自由に乗り降り

4月1日からまえばしシェアサイクル cogbe の利用が開始。初日に運用開始式を開催しました。cogbeは中心市街地に設置した30カ所のサイクルポートで自由に乗り降りできる電動アシスト自転車。15分25円からキャッシュレスで利用できます。



子どもも楽しい企画展

本市出身の児童文学作家・木暮正夫展を6月6日(日)まで前橋文学館で開催。活動の歴史をたどる展示のほか、読書やカルタ遊びなどができるコーナーもあります。また、作品に関連して館外には焼きまんじゅうのキッチンカーが出店。広瀬川のほとりで老舗店の味を楽しめます。

いきいき まえばし人
呑竜仲店協同組合理事
吉田貴行さん・39歳
上細井町

昭和レトロな横丁文化を残したい



3月31日、新設されたちようちんが明るく通りを照らす中、呑竜仲店(千代田町三丁目)で点灯式が実施された。昭和22年から「呑竜マーケット」として親しまれている飲食店街は、1981年の火災で焼失したものの、規模を縮小して再建。バブル崩壊後も営業を続けてきたが、近年は施設の老朽化や経営者の高齢化に加えてコロナ禍もあり、店舗数が減少。こうした中、昨年夏に組合の新しい理事のひとりとなった吉田さん。「まちなかで生まれ育ったのですが、幼い頃のにぎわっていたイメージと異なり、理事に就いた時には営業している店が7店舗に減り、寂しい状態でした」

再び人が集まる活気のある場所にしたと、4、5坪の小さな店が密集し昭和の懐かしさを感じさせる雰囲気を生かした復活案に取り組んだ。「改装では、レトロな感じを残しつつ、明るく清潔感のある空間を心掛けました」

アーケードをふき替え、外壁を洗浄。夜に輝くちようちんも大幅に増やした。「明るくなり入りやすくなったせいか、若者も多く立ち寄るようになりました」と笑顔を見せる。

今後は店と店とのつながりをさらに深めながら、出店意欲のある若者の開業支援に取り組み、まちなかのにぎわいを創出していくつもりだ。

旬な農産物や生産者を紹介するこのコーナー。今回は、柏川町月田でカーネーションを育てるカスカワ・シードリング・アソシエーションの星野浩章さんです。

同社では星野さんの父親がカーネーションの栽培を開始。現在は年間約7万鉢を栽培しています。一つの鉢からさまざまな色の花が咲く「絆」や、エールの意味を込めた「応援花」など、オリジナルシリーズの開発にも注力。常に挑戦心を持って活動しています。

冷暖房を使用する一般的な栽培方法と異なり、過酷な環境の中で時間をかけて育てることで、開花後も長持ちする丈夫な花に。二酸化炭素を排出しない栽培方法で、環境に配慮した活動にも取り組んでいます。



channel 1
カーネーション
農政課
027-898-5841



出荷直前のハウス内の様子



SAKEENE® (カネコ種苗) 絆シリーズ「げんき」

「花を贈ることは、心を贈ること」と星野さんは話します。もらう人の気持ちを思い、花ごとの色や形にむらが出ないように細やかな管理を徹底しています。

星野さんのカーネーションは、柏川特産物直売所(柏川町月田)やはなくらぶ前橋店(住吉町二丁目)で購入できます(出荷状況で販売状況が変わります)。



星野 浩章さん